

はじめに

本書の書名は、「医療と看護ケアのためのライフレビュー」である。高齢者は、ライフサイクルのなかでは死に最も近い時期におり、またがん患者は、病気のなかでも死を想起しやすい状況にあるといえるだろう。だからこそ、高齢者やがん患者は、自分がどのような人生を辿ってきたのかを振り返り、そして、今からの人生をどう生きていくのかを改めて、考え直すことが多い。その行為のなかで、自分の存在意義やアイデンティティを確認しなおし、これからの時間をより満足できるように生きようとする。すなわち、「死を思うと同時に、生を思う」ということは、よりよく生きることにつながると思われる。

約10年前に、「終末期のがん患者を対象にライフレビューをすることは、心理面に良い効果があるのではないだろうか」と筆者は考えたが、当時、受け入れてくれるところは少なかった。そのような中で、ある病院の医師に調査の協力を依頼して、調査の内容をスタッフのカンファレンスで説明したところ、「どこでするのか」「誰がするのか」「患者さんに悪い影響があったらどうするのか」「効果があるのか」など、多くの質問に合い、前途多難な感じだった。そのとき、ある医師が、「やってみないとわからないだろう。また、何か一つ心理の介入をしたからといって、目に見えて、ぐんぐん患者さんが変わることはないだろう。しかし、患者さんになんらかのプラスになると思われるなら、やってみる価値はあるだろう」ということで、調査を始めることができた。それから、約10年の間、がんの患者さんを対象とした研究を積み上げて、本書にまとめることができた。

本書が、みなさまの学習、臨床での仕事、研究などに役立つことを心から願っています。

2012年3月

著者

医療と看護ケアのためのライフレビュー

目 次

はじめに	1
第1章 回想法とライフレビューの概論	7
1. ライフレビューとは	7
2. 回想法の一般的な実施方法	8
3. 高齢者を対象とした回想法の調査	9
(1) 対象と方法	9
(2) 結果と考察	10
第2章 ハンセン病回復者に対するライフレビューインタビューの事例	12
(1) 事例1 田中氏へのライフレビューインタビュー	12
(2) 事例2 川野氏へのライフレビューインタビュー	14
(3) 事例3 花野氏へのライフレビューインタビュー	15
(4) 事例4 北山氏へのライフレビューインタビュー	17
(5) 事例5 浜野氏へのライフレビューインタビュー	18
第3章 がん患者へのライフレビュー	20
1. がん患者とは	20
(1) がんに対する近年の動向	20
(2) がん患者の苦痛	21
(3) 精神的・心理的苦痛	21
(4) スピリチュアルペイン	23
2. がん患者に対するライフレビューの先行研究	24
第4章 がん患者へのライフレビューに関する研究	27
1. 治療中のがん患者への構造的ライフレビュー	27
(1) 対象と方法	27
(2) 結果と考察	28
2. 終末期がん患者を対象とした構造的ライフレビューの効果	30
(1) 対象と方法	31
(2) 結果と考察	32
3. 終末期患者を対象とした短期回想法を用いた研究	34
(1) 対象と方法	34
(2) 結果と考察	35

4. 遺族に対するライフレビューを用いた研究	35
(1) 対象と方法	36
(2) 結果と考察	36
第5章 ライフレビューの実践方法	38
1. ライフレビューの目的とコミュニケーション技術	38
(1) ライフレビューでの基本的態度	38
(2) コミュニケーション技法	39
2. がん患者にライフレビューをするために必要な条件	42
(1) 対象の条件	42
(2) 実施する人の条件	43
(3) 実施前の準備	45
(4) 実施上での留意点	45
3. がん患者への構造的ライフレビューの実践方法	47
(1) 実施の方法	47
(2) 構造的ライフレビューのプログラム	49
(3) テーマごとのライフレビューのプログラム	49
4. 短期回想法の実践方法	49
(1) 方法	49
(2) 短期回想法の実際のプロトコル	52
(3) ロールプレイのためのシナリオ	53
(4) 実践しましょう	55
第6章 ライフレビューの実践事例	57
1. 終末期がん患者への構造的ライフレビューの事例	57
(1) 面接の経過	57
(2) 面接の結果	60
2. 短期回想法の事例	61
(1) 面接の経過	61
(2) 面接の結果	63
3. 遺族へのライフレビュー（ビリーブメント・ライフレビュー）の事例	63
(1) 面接の経過	63
(2) 面接の結果	65
あとがき	66

